

8年度秋田県教育研究奨励賞授賞式  
第11回 秋田県教育研究発表会

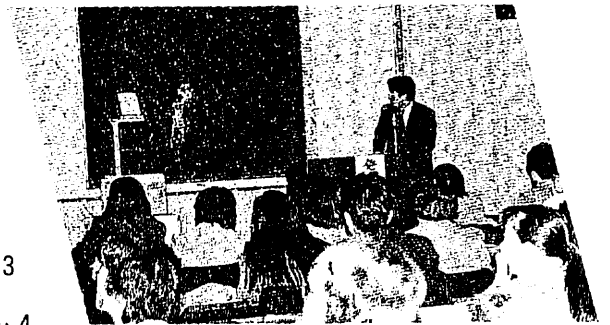


「開会式」であいさつする  
高田屋所長

総合教育センターだより

◇ — も く じ — ◇

- ・ 第11回秋田県教育研究発表会開会式・発表風景…… 1
- ・ 第11回秋田県教育研究発表会…………… 2
- ・ 教育相談と「教育の相談」…………… 3
- ・ 講座の一層の充実を目指して…………… 4
- ・ 平成8年度総合教育センター刊行物案内…………… 4



教育研究奨励賞団体表彰を受けた  
男鹿市立鹿山小学校の発表

平成9年3月14日発行

秋田県総合教育センター

〒010-01 南秋田郡天王町天王字追分西29番地の76  
TEL 0188 (73) 7200 (代表)  
FAX 0188 (73) 7201

すこやか電話相談 0188 (73) 7206  
パソコン通信 0188 (73) 7207 (代表)  
学習指導案 レファレンスサービス 0188 (73) 7210 (FAX)

# 第11回秋田県教育研究発表会



教科研修部長 小柳 力



講演される筑波大学名誉教授 永岡順氏

春隣を思わせる穏やかな天候に恵まれた2月13、14日の両日、秋田県総合教育センターでは、平成8年度（第11回）教育研究奨励賞授賞式並びに秋田県教育研究発表会が行われました。900余名の熱心な参加者を迎え、社会の変化に対応し、かつ豊かな人間性をはぐくむ学校教育に向けての研究の成果を、広く県内外の教育界に公にするものでした。

以下に当日のあらましを記します。

教育研究奨励賞には、小学校10、中学校6、高等学校4、計20の研究論文の応募があり、その中から優秀な個人、団体の表彰が行われました。

研究の発表は、各市町村教育研究所の共同研究1、教育センターの研修員25、指導主事5、各研修部4、教育奨励賞20、各学校から25、計80がなされました。その数に意欲の表れを感じるとともに、それぞれが内容の濃い発表でした。

続いて、総合教育センター全体の研究主題である「一人一人の思いをはぐくみ、豊かで特色のある学校の創造」について、各研修部がそれぞれの視点からテーマを設定し、取り組んだ研究について紹介します。

- \* 教職研修部では、「学校の活性化につながる校内研修の在り方」を探ってきました。視野を広げることを目的とした校内研修だけでなく、課題解決のための校内研修がどうあればよきに焦点を当て、理論研究、調査研究、実践研究等をして得られた成果を発表しました。
- \* 教科研修部では、これからの学習指導の在り方について研究を進め、たくましく生きぬく力を育てるためには、教科間の垣根を低くした学習指導を展開していく必要があるという考えに立ち、クロス・カリキュラム的アプローチによる授業改善の在り方について発表しました。
- \* 情報教育研修部では、児童生徒のパソコン通信による交流や情報活用能力の育成のための研究を推進しています。今年度は、「教育ネットAkita」

及びインターネットのホームページ作成活動によってどのような教育成果が得られたかを発表しました。

- \* 特殊教育・相談研修部では、いじめ問題に焦点を絞り、「いじめ対策の構造」を明らかにするとともに「実効性のあるいじめの根絶対策はどうか」を探ってきました。「学校いじめ自己診断法」を提案しながら、成果が得られた事例を紹介しました。

各研修部研究発表の後に、交流の広場を設け、それぞれのテーマに沿って、自由に意見の交換できる時間としました。日々の実践を基に様々な課題に向けての取り組みについて情報交換するとともに、今後の指導の在り方を広い視野から考えました。

インターネットで世界中が繋がるなど、一層のマルチメディア時代の進展により、ありとあらゆる情報が入ってくるため、今までの学び方は変わらざるを得なくなるといわれています。つまり「受ける学び」から、自分が必要な情報を「選んで学び」「つくって学び」「発信する学び」へと変わっていくということです。そういう意味で、この記念すべき第11回の講演に、第1回記念講師としておいでいただいた筑波大学名誉教授、永岡順先生を再度お迎えし、演題も前回と同じ「教育改革の方向とこれからの学校教育」ということでお話していただきました。会場を埋めた聴講者のそれぞれの胸中深く残るもののある講演ではなかったでしょうか。また、この講演の様子を当総合教育センターから県内はじめ世界に向けて、インターネットで発信するという、画期的な試みもなされました。

一方、企画展は、「見て、聞いて、触れてみる、情報メディア展」としました。「教育ネットAkita」やインターネット、FAXによる学習指導案レファレンスサービスなどの体験コーナー等には、たくさんの方々が興味を示し、意欲的に体験していることに、次代の教育への新しい息吹を感じました。



企画展「情報メディア展」

# 教育相談と「教育の相談」



特殊教育・相談研修部長 齋藤 宣子

- (1) 当総合教育センターでの教育相談は、心身の障害を主とした「障害児教育相談」と生徒指導を主とした「一般教育相談」に大きく分けられる。
- (2) 「障害児教育相談」では養育・教育に関する事、就学に関する事、「一般教育相談」では登校拒否に関する事、学業、進路に関する事が多い。
- (3) それぞれの問題に特効薬があるはずもなく、地道に各種のケースに対応している。来た時よりも帰る時の明るい表情を、回を重ねる毎に元気になっていく子供たちの姿を励みにしながら。

## ◆ 教育相談の件数

今年度4月から1月までに受理した件数は次のようになっています。

- ・来所相談 ————— 182件
- ・電話相談 ————— 195件

相談者は幼児、小学生、中学生、高校生、高校生以上と幅がありますが、小・中学生の相談が多く、高校生の相談も増えています。

来所相談を件数と面接相談回数で見えます。

- ・障害児教育相談 ——— 65件      381回
- ・一般教育相談 ——— 117件     1,717回

## ◆ 登校拒否の教育相談

上記に示した一般教育相談の中で大きな割合(72%)を占めているのが登校拒否の相談です。いずれも一朝一夕に解決できないような事例が多くなっています。登校拒否のきっかけとして、学校での友人や教師とのトラブルや家庭での出来事などがあげられることがあります。

しかし、これは発生の契機ではあっても、ほとんどの場合、本当の原因は別にあることに気づいてもらうまで多くの時間を要します。氷山の裾野をきちんと見極めないで、海面に浮上して見える氷塊だけを見て進むことは危険です。

登校拒否児童生徒のいない学校を探すのは難しいといわれるぐらい蔓延している昨今、この問題は深刻です。学校に籍をおいているから、登校拒否として問題視され注目されていますが、この状況が長引きこじれると将来、社会的にも不適応をきたすことは自明のことです。

現に、閉じこもり大人や無気力大人の問題としていっそう深刻な様相を呈している事例が報告されています。

## ◆ ふたつの「教育の相談」

### 〈その1〉

学校が冬休みの1日、県南地区の小学校から先生たちの教育相談の申込みがありました。「自閉症児童の指導」について、教職員がもっと理解を深め、共通の姿勢で子供にあたりたいというものでした。

校長・教頭・教務主任・養護教諭を含め8名の先生たちが来られて、教育相談というよりはセンターの私たちが上手に活用して、自閉症児を中心に研修を深めていただきました。現場の先生たちと共にまさに「教育の相談」ができました。

### 〈その2〉

赴任したばかりの学校に、2年近く登校拒否を続けている児童がいることに胸を痛めた教頭先生が相談に訪れ、センターの教育相談での支援を聞いて帰られました。

また、センターでの会議や講座の折、校長先生初め関係の先生たちがしばしば寄って担当者から様子をきいて帰られることがあります。ともすれば、相談者側からの一方的な悩みや訴えの情報を手がかりに進めざるを得ないことが多い教育相談が、こんな時一歩も二歩も前進するのです。

## ◆ さらに充実した教育相談のために

教育センターは数ある相談機関のひとつです。機関の性格上からも、個々の相談について、さらに学校・保護者と時宜を得た連携をしながら教育相談をすすめていく必要を感じています。

一方、「教育の相談」に述べたような事例も大事な相談活動です。個々のケースをもとに、学校でも全職員で受けとめて支援していただくことが「学校での予防的教育相談」につながることを考えています。

平成9年度

## 講座の一層の充実を目指して

総合教育センターの研修講座は、「秋田県教職員研修体系」に示されている「初任者研修を起点とし、ライフステージに応じた研修」をベースにして実施されております。

平成8年度に当センターで実施した研修講座数は、140講座、講座延べ日数は369日で、受講実人数は、5,013人でした。平成9年度は、これまでの方針を大筋で継承しながら、136講座の実施を計画し、5,250人の受講を見込んでいます。

平成9年度研修講座の特色は次のとおりです。今日的な教育課題及び教職員のニーズに対応し、実践的指導力の一層の向上を目指しております。

①国や県の教育課題にこたえる講座及び魅力ある希望講座（C講座）の設定に配慮し、研修内容や研修日数等を改善して講座が受講しやすくなります。

②異校種間連携を促進するために、合同講座を一層充実させております。特に、10年経過研修は全校種が合同で実施し、5年経過研修や学年主任、進路指導主事、生徒指導主事の新任研修では中高合同で協議します。C講座でも「オープン講座」など校種を問わない42の講座があります。

③国立教育会館が主宰する衛星通信を利用した、いじめ問題等学校カウンセリング実践講座（7/30）と情報教育基礎研修講座（8/22）を、当センターでの研修講座の一部にリアルタイムで活用します。

④「公開講演」を次のとおり設定し、一層の充実を図っております。特に、○印の公開講演は「教職と人生シリーズ」として幅広い視点からの講話を予定しております。

豊かな心と確かな学力

（文教大学・教授 石田 恒好氏）

ネットワーク時代における情報教育

（東京工業大学・教授 赤堀 侃司氏）

学習指導と評価

（元東京都立府中西高校長 山藤 常雄氏）

○秋田の先人に学ぶ

（筑波大学・教授 佐藤 常雄氏）

○この道ひとすじ—鳥海山に魅せられて—

（元仁賀保高校長 加藤 雄悦氏）

○人間の心

（茨城カウンセリングセンター・理事長 大須賀舜蔵氏）

○生と死を考える

（本澄寺住職・能代病院嘱託医師 柴田 寛彦氏）

○私の生涯学習—シャノンとわたし—

（日本シャノン協会・理事 黒崎 昭二氏）

⑤受講者にとって自主的・主体的に参加できる内容を工夫することにより、研修講座の一層の充実を目指します。

### 平成8年度 総合教育センター刊行物案内

◎ 研究紀要 第28集

○ 研究課題「一人一人の思いをはぐくみ、豊かで特色のある学校の創造」

- ・ 教職研修部研究「学校の活性化と校内研修」
- ・ 教科研修部研究「たくましく生きぬく力を育てるクロスカリキュラム的アプローチ」
- ・ 情報教育研修部「思いを世界につなぐ情報教育」
- ・ 特殊教育・相談研修部「いじめの根絶をめざして」
- ・ 個人研究

\*平成9年3月発刊、各学校に5月中に1部ずつ送付する予定です。

◎ 平成8年度 研修員研究集録

◎ 新任教員のための研修の手引

\*新任教員と指導教員、教科指導員に配布されました。

◎ 生徒指導だより

\*総合教育センターから、各教育事務所を経由して、各学校へ月一回送付。

◎ 情報通信

\*平成9年3月より発行。

紹介したすべての刊行物は、いつでも当総合教育センター資料室で、自由に閲覧することができます。